

43 明治小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	ふるさと頸城を愛し、思いやりにあふれ、未来をたくましく切り拓く子ども
我が校の目指す子ども像	よく考え自ら学ぶ子 進んでかかわる子 元気に生活する子



実現に向けた重点的な取組内容	小中一貫教育の具体的な取組	
	我が校の取組	中学校区の取組
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着と考えをつくる力、伝え合う力の育成</li> <li>互いを認め合う心と主体的に課題を解決・改善する態度の育成</li> <li>運動習慣の定着と生活リズムを自分でコントロールする力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3部会（学力向上部、豊かな心部、健康づくり部）を柱とした小中学校連絡会（小中一貫教育「頸城プロジェクト」）による実践</li> </ul>
	成果○と課題■	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善の視点を明確にした授業研究・協議会の実施と成果の蓄積</li> <li>○人権教育、同和教育の充実（いじめ見逃しゼロスクール集会、人権教育、同和教育授業公開等）</li> <li>○児童会活動や縦割り班活動、学年部合同の授業での人間関係作り</li> <li>○運動の楽しさが実感できる体育の授業づくり</li> <li>■読書習慣の形成</li> <li>■人とかかわる力の育成</li> <li>■体力向上と生活コントロール力の向上、メディアの適切な利活用の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各校の研究授業の参観交流</li> <li>○区内教職員対象の合同同和教育現地学習会の実施</li> <li>○人権だより「四つ葉」を地域や保護者に発信</li> <li>■家庭や地域を巻き込んだメディアシャットダウンの取組</li> <li>■学力向上に向けた、授業改善の推進とICTを活用した学習活動の充実</li> </ul>	

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
地域の池や森、里山、地域で活躍する人とかかわる機会を繰り返し設けた。観察や調査、聞き取りを通じ、自然事象や人の営みについて理解を深めた。そして、全体や個別で課題をもち、解決に向けて考えたり、話し合ったりし、発表や発信を行った。発達段階に応じた探究過程を踏まえることで、調べ方や発信の方法を工夫する力に高まりが見られた。	総合	「大池小池たんけんたい」（3年）
	総合	「大蒲生田の里山に行く」（4年）
	総合	「夢に向かって～人・自分を見つめてから」（5・6年）
学校運営協議会の評価	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった	
1～4年生は校区の自然や人材を活用した学習活動により、ふるさとへの愛着を深めた。5・6年生は様々な職種に就く方々とのかかわりを通じ、将来を考える契機を設けた。学校が目指すカリキュラムの方向性は明確であるが、今後も検討を重ね、さらに子どもたちの実態に応じた取組を進めてほしい。	○	当てはまる
		どちらかというと当てはまる
		どちらかというと当てはまらない
		当てはまらない

# スクーリングマネジメント実践報告書

## 学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	3人	保護者	2人	住 民	5人	その他	1人	合計	11人
学校運営協議会の回数 ※（ ）は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回 (0)	2学期	1回 (0)	3学期	1回 (0)	合計3回 (0)	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	1回 (0)	2学期	0回 (0)	3学期	0回 (0)	合計1回 (0)	

活動の内容	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> <li>5月にカリキュラム検討会を実施した。委員より提供された情報を活かし、生活科や総合的な学習の時間等で、地域の教材・人材を活用して学習を工夫することができた。第2、3回の協議会では、取組の成果と課題を委員間で共有できた。</li> <li>花壇実行委員会と連携し、名所花壇「にじいろガーデン」の整美と一人一鉢の活動を行った。青少協とも活動計画を共有し、地域探検やクリーン活動を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化祭や学習参観等で、子どもが活躍する姿を参観いただいた。カリキュラム検討の成果を確かめる好機となった。参観を踏まえ、9月の中間報告や2月の活動まとめでは、より具体性のある協議ができた。</li> <li>○名所花壇「にじいろガーデン」の活動やクリーン活動は、地域住民にも定例の活動として認知されている。</li> <li>■花壇整備作業は週休日に行う計画だったが、参加する職員には負担感がある。</li> </ul>

総 括
<p>学校運営協議会の提案や評価を教育活動に活かすことができ、成果を感じた。委員間で実際に目にした子どもの姿を語り合うことで、協議に深まりが出ている。また今年度は、花壇実行委員会や青少協の活動でも、今まで以上に子どもたちの参画を進めることができた。</p> <p>今後も、地域との熟議と協働は欠かせない。地域、保護者、職員がより参画・参加しやすい活動の在り方を工夫し、より多くの方から学校に支援いただけるよう努力したい。</p>

### 〈活動写真〉



#### ○カリキュラム検討会

5月の学校運営協議会では、視覚的カリキュラム表を基に、低・中・高学年に分かれて1年間の学習活動を話し合った。地域の情報を活かし、生活科や総合の活動内容を工夫できた。



#### ○大蒲生田の里山に行く

4年生は、大蒲生田の自然を学んだ。現地でホタルが生息していることを知り、生き物が生息しやすい環境の在り方を調べた。そして、夏前からホタルを育て、秋に幼虫を放流した。



#### ○にじいろガーデン整備

5・6年生は、花苗を選択して配置を考えたり、低・中学年の面倒を見たりする場面で、リーダーシップを発揮した。また、縦割り班ごとの草刈りの機会を設けることで、子どもたちの参画場面が広がった。